

# 11月14日は「世界糖尿病デー」です！

世界糖尿病デーは、世界に広がる糖尿病の脅威に対応するために1991年にIDF（国際糖尿病連合）とWHO（世界保健機関）が制定し、2006年12月20日の国連総会において「糖尿病の全世界的脅威を認知する決議（UN Resolution 61/225）」が加盟192カ国の全会一致で採択されると同時に、国連より公式に認定されました。11月14日は、インスリンの発見者フレデリック・バンティングの誕生日にあたります。

今年度は、世界糖尿病デーに合わせて、宮崎大学の上平先生から寄せられた文書を掲載します。この機会にみなさんと糖尿病について考えてみませんか？

## 「第61回全国糖尿病週間（2025）に寄せて」

宮崎大学医学部内科学講座 血液・糖尿病・内分泌内科学分野 うえひら ゆうだい 上平 雄大

皆さんはブルーサークルをご存知でしょうか。世界糖尿病デーのキャンペーンに用いられる、青い丸のことです。ブルーサークルは、糖尿病に関する国連決議（糖尿病の全世界的脅威を認知する決議）が採択された翌年の2007年から使用されているシンボルマークであり、国連やどこまでも続く空を表す「ブルー」と、団結を表す「輪」をデザインし、「Unite for diabetes」（糖尿病との闘いのために団結せよ）という意味が込められています。また、世界糖尿病デーである11月14日には糖尿病の脅威啓発のために世界中のさまざまな施設がブルーにライトアップされます（過去に宮崎県では県庁本館や古賀総合病院がライトアップされています、今年は11月9日から15日で県庁本館の他、都城市北諸県郡医師会館本館、日南市役所がライトアップ予定です）。

世界の糖尿病患者数は5億人を突破し、今後も増加することが予想されることから糖尿病はいまや人類全体の健康を脅かす病気となりました。一人ひとりの生活習慣や治療の継続はもちろん重要ですが、一人一人が糖尿病を正しく知り、理解するなど、社会全体で団結して支え合う姿勢が重要です。

11月14日の「世界糖尿病デー」をきっかけに、あなたもブルーサークルの輪に加わってみてはどうでしょうか。



## 串間市民病院のリハビリテーション科より

皆さんこんにちは！私は串間市民病院で言語聴覚士（S T）として勤務している菱輪といいます。趣味は『手相占い』です。よろしくお願いします！

現在、串間市民病院には1名のS Tが（私が）、2022年から勤務しており、日々患者さまのリ・ハビリテーションを行っています！！



さて、突然ですが皆さんに質問です！！



Q 1.『言語聴覚士（S T）』という職業を知っていますか？

Q 2.『言語聴覚士（S T）』がどのような仕事をするか知っていますか？



いかがでしょうか？

「知らないなあ」、「聞いたことないなあ」という方々が多いのではないのでしょうか？

そこで今回、『言語聴覚士（S T）』について、そして『言語聴覚士（S T）が串間市民病院でどのような仕事をしているか』について簡単ではありますが紹介させていただこうと思います！！

### 言語聴覚士（S T）

言語障がい（失語症、構音障がい、高次脳機能障がい）、聴覚障がい、ことばの発達の遅れ、声や発音の障がいなどによるコミュニケーションの問題や、嚥下障がいの問題に対して問題の本質や発現メカニズムを明らかにし、対処法を見出すために検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行う専門職です。

#### 言語障がい

上手く話せない  
話が理解できない  
文字が読めない

#### 高次脳機能障がい

忘れやすく、思い出せないことが多い  
気が散りやすい  
複雑な内容を手順通りに進められない

#### 聴覚障がい

相手の声が聞き取れない  
何度も聞き返す  
テレビの音を大きくする

#### 構音障がい

発音がはっきりしない

#### 嚥下障がい

上手に嚥めない  
上手に飲み込めない

#### 音声障がい

声が出にくい  
声がかすれる、小さくなる

（一般社団法人日本言語聴覚士協会ホームページより）

### 串間市民病院の言語聴覚士（S T）の仕事

#### 入院

- 1位 食事形態の調整
- 2位 水分のトロミ調整
- 3位 口腔ケア
- 4位 摂食嚥下訓練
- 5位 発声訓練・構音訓練
- 6位 言語訓練

入院して間もない患者さまが多く、食事に関わる業務が多いです。

#### 外来

- 1位 構音訓練
- 2位 言語訓練
- 3位 コミュニケーション訓練



未就学児～小学生を対象に、発音やことばの理解・表出、コミュニケーション全般の関りが多いです。

#### 院内勉強会

- ☆ 口腔ケア
- ☆ 食事介助方法
- ☆ トロミ調整

食えることや、誤嚥性肺炎予防等の内容について院内スタッフ向けの勉強会実施。

